

第41回八雲町青年問題研究集会実施要項

1 開催にあたって

2024年は年始から能登地方での大地震、南海トラフ地震臨時情報が初めて発表されるなど緊張が走りました。また、温暖化の影響か全国各地で豪雨被害と猛暑の夏となりました。また、人口減少や物価高など様々な問題がある中、政治は不安定な状況で将来の不安は大きくなるばかりです。

八雲町では木彫り熊が100周年、八雲山車行列が40年の節目の年を迎え、様々な記念事業が行われたことで八雲の魅力が町内外へ発信され、自分たちが住む八雲の熱さに改めて感心しましたが、地域を見れば高齢化が進み空き家も増え、寂しく見えるところもあります。

人口が減り、地域の活力が減少したとしても地域コミュニティの維持は大切なことであり、そこに住む一人ひとりの繋がりが重要だと思います。町の文化が何十年と続いてきたのも、様々な人との繋がりと熱意があったからこそだと思います。

そんな繋がりが今どうなっているのか、そこに壁はないのか、助け合える人間関係・地域になっているのか自分たちに改めて問いかけ、自分のこととして考えながら、それらの問題や課題への解決のキッカケづくりや自分自身の成長へ繋げていくために、今回の八雲町青年問題研究集会を開催します。

一人ひとりが自分のこととして地域、社会のことを語り合い、その答えを発見していきましょう。

2 テーマ

「壊そう！その〇〇の壁 ～語り合いから発見へ～」

3 スローガン

- ①自分の想いを素直に話そう
- ②相手の想いを受け止めよう
- ③青研集会で得た想いを未来へ活かそう

4 期 日 令和7年3月14日(金)・15日(土)

5 会 場:八雲町公民館

6 主 催:八雲町教育委員会

7 主 管:八雲町青年問題研究集会実行委員会

8 参加対象:青年並びに青年の生き方に関心のある人(町外の方も参加可能)

9 参加費:無料ですが、2日目の昼食の斡旋を希望する方は500円がかかります。

10 内 容

(1) 記念講演 「 地域活性化の処方箋～八雲で楽しく暮らし続けていくために～」

講 師 大野 剛志 氏

(旭川市立大学 保健福祉学部コミュニティ福祉学科 学科長・教授)

(2) 分科会 青研集会のメインで、参加者の自己紹介を中心にテーマとの関わりを語り合うものです。(人数は参加者一人一人が主人公になれるように司会者・助言者を含めて5名程度とします)

①まちづくり

地域の特色や魅力、課題を改めて語り合うことで、この町でそれぞれがイキイキと活動して暮らしていくために、自分たちにできることを考えてみましょう。

②仕事・暮らし

仕事や暮らしに対する不安や悩みはありませんか？
職種も立場も違う参加者の皆さんと語り合って、やりがいのある楽しい仕事(職場)、住みよい暮らしとは何か考えてみませんか。

③教育

「教育」というと「学校」というイメージがありますが、私たちは生まれてから今まで「家庭」「学校」「団体」「職場」など様々な場所で、教えられたり、教えあったりしながら成長してきました。

自分が今まで受けてきたこれらの教育を振り返りながら、自分たちをとりまく地域や社会の中で、今後どんなふうに生きていきたいのか、そのためにはどうしたらよいのかを一緒に考えてみましょう。

(3) 全体会・決意表明

11 日 程

令和7年3月14日(金) 18時30分 受付開始
19時00分～19時10分 開会行事
19時10分～21時00分 記念講演
21時00分～22時00分 意見交流(希望者のみ)

3月15日(土) 9時30分～15時00分 分科会
15時00分～15時30分 全体会・決意表明

12 参加申し込み

3月7日(金)までに、八雲町教育委員会社会教育課(公民館TEL0137-63-3131)へ、参加申込書(自己紹介カード)に必要事項を記入し、レポートを添えてお申し込みください。(資料集を

作る関係で締め切り厳守でお願いします。)

記念講演のみ参加される方は、3月11日(火)までに社会教育課へお申し込みください。

13 その他

- (1)分科会参加者にはレポート提出を期待します。レポートは当日の話し合いをスムーズに進めると同時に、自分の考えをきちんとまとめ、自分のことを周りのメンバーに正しく理解してもらえらるためにも必要です。書き方は、各自生き方を振り返り、自分の考えや人生観が変わったというできごとを中心に、現在抱えている問題点を整理し、その解決を図るにはどうしたらよいかということ自分の考えと言葉でまとめるようにしましょう。なお、レポートについては青研集会を運動としてとらえているために、準備段階でも点検しながらより具体性を持った内容にしておきます。
- (2)分科会参加者には事前に資料集(レポート・自己紹介カード・各種資料集)を配布する予定です。
- (3)分科会の司会者は、内容を深めるために主管団体(関係団体)あるいはメンバーの日常生活を理解しているメンバーなどとします。
- (4)助言者は青年の団体活動の意義を正しく理解し、青年と共に自分も成長しようという姿勢を持ち、地域づくりに関わっている人とします。
- (5)青研集会の成果を今後の青年団体活動、地域づくりに活かすためにも、語り合いだけで終わらせるのではなく、具体的な取り組みを明らかにしていきます。